

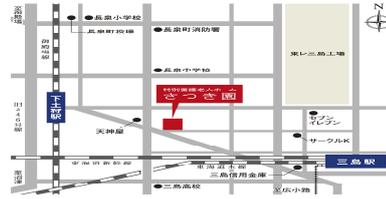
# 向き合うために

～安楽な姿勢を求めて～

特別養護老人ホーム さつき園  
介護職員 緒方亮仁 上野彩

平成29年8月4日(金)

## 施設案内



三島駅より徒歩12分という場所

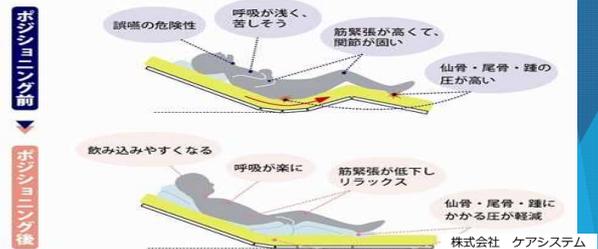
## 特別養護老人ホームさつき園

平成16年4月開設

・ユニット型入所定員70名

・ショートステイ定員10名

## ポジショニングとは



## 使用するクッションについて



豆型クッション

スネーククッション



ジャパラ型クッション

## 対象者の紹介



K様 83歳  
平成22年2月24日 入所  
要介護5  
既往歴  
・脳幹出血後遺症  
・腰椎圧迫骨折 ・水頭症  
左上肢麻痺 右腕関節拘縮

## 対象者の選定理由

- ・首が極端に右を向き、他入居者様や職員、ご家族と接する際にきちんと向き合う事が出来ない
- ・日常生活で体全体が右を向いてしまっている
- ・特に頭は常に右方向に向いたまま

そこで...

## 右向きの首の改善

を目標に！



## ポジショニングについて



拘縮/変形予防

筋緊張の緩和と調整

床ずれ予防

呼吸の改善

浮腫の改善

姿勢の安定により活動を促す

座位や立位の準備

安楽な姿勢作り

## 研究方法

実際に車椅子上での  
ポジショニングを  
体感する



苦しい、右を向いて  
しまうポジショニング  
という事が身をもって  
分かった

## 研究方法

▶ 首が右側に向いてしまった原因は...?

- ・日中・夜間の体位変換が右側臥位メインだった
- ・ベッドの向き・位置(居室の入り口から見て左側に寄っている)
- ・右側からの介助が多い (食事・排泄・面会・音楽等)
- ・車椅子上でも体交枕(三角枕)が体の左側に入り、体が右に向いてしまっている
- ・ベッド・車椅子上でギャジアップすることにより重力が効いて右下を向いてしまう

右側に意識が行ってしまう

## 研究方法

- ・臥床時、左側臥位メインの体位変換に変更
- ・ギャジアップは食後から排泄介助までの間と体調不良時のみに限定する
- ・ユニット職員全員でポジショニングを考え、決定する
- ・ベッドの向きを変更する
- ・車椅子上でのポジショニング・クッションの変更
- ・リビングの定位置の変更(TVが左側に来るようにする)
- ・豆型クッションの使用

## 研究内容

ベッドの位置を変更する



右側からの介助が左側からの介助へ！！

## 研究内容

- ・ 臥床時、左側臥位メインの体位変換に変更
- ・ ギャッジアップは食後から排泄介助までの間と体調不良時のみに限定する

日付	/1	/2	/3	/4	/5	/6	/7
9:00	右	右	右	右	右	右	右
10:00							
11:00	リビン						
12:00							
13:00	右	右	右	右	右	右	右
14:00							
15:00	リビン						



日付	/1	/2	/3	/4	/5	/6	/7
9:00	左	左	左	左	左	左	左
10:00							
11:00	リビン						
12:00							
13:00	左	左	左	左	左	左	左
14:00							
15:00	リビン						

※日付は例です

## 研究内容

～ユニット職員全員でポジショニングを考え、決定する～



このポジショニング  
に決定!

職員考案

## 研究内容

～ベッド上でのポジショニング・クッションの変更～



変更前  
(右側臥位メイン)



変更後  
(左側臥位メイン)

## 研究内容

～車椅子上でのポジショニング・クッションの変更～



## 研究内容

～リビングの席の変更～



## 研究内容

～豆型クッションの導入につき使用開始～



右腕に拘縮がみられる為、臥床時・車椅子上で右腕に入れる

## 研究経過



1 ヵ月

2 ヵ月

3 ヵ月



## 研究結果

過去のデータを収集すると...

- ▶ 昨年1月・5月・7月・10月・12月と熱発が頻繁にある
- ▶ ポジショニングを始めるまで、右の首と顎の間に皮膚トラブルがあり、入浴後処置をしていることが多かった

## 研究結果(他職種の見解)

### 介護側

- ▶ 主任：ポジショニングの徹底により、褥瘡も無く食事摂取量も安定している。ユニット職員の介護技術や意識が高まった
- ▶ ケア：車椅子上での傾きや、姿勢を直すこともなくなった。以前より安楽な姿勢を保っている。それにより誤嚥のリスクも低くなり、繰り返された熱発がなくなったのでは？
- ▶ 副主任：職員のポジショニングに対する意識が高まった。車椅子上での姿勢を見直し安全で快適な食事介助ができた

### 他職種側

- ▶ 機能訓練士：臥床の際、首が柔らかくなったことにより向きが良くなった。臥床時に右を向いている時間が以前に比べて短くなった
- ▶ 看護師：唸り声を上げる事がなくなった。右の首元の発赤に対する処置がなくなった

## 研究結果

- ▶ 首と右肘の拘縮改善は見られなかった
- ▶ 皮膚トラブルの改善
- ▶ バイタルが安定している
- ▶ 食事中むせ込むことが少なくなった
- ▶ 吸引するような痰絡みは無くなった

## 考察・まとめ

- ▶ 目に見える範囲での拘縮や姿勢の改善はみられなくても健康状態やQOLの維持に繋がることが分かった
- ▶ 劇的な著しい変化は見られなかったが、これを継続していくことにより首の改善に繋がるのではないかと
- ▶ 今回の研究によりポジショニングの正しい方法を身につけられた。対象者以外に入居者にも応用し、『安楽な姿勢』を提供できるようになった

平成29年7月 現在



ご清聴ありがとうございました